

# 釣れ釣れなるままに

1998年思い出の釣行記 PART. 2

# 3日酔いの体に 鞭打つて

## 鹿島釣狂

### 釣遊会第4回大会

☆開催日 7月26日

☆開催場所 庶野港～目黒港

☆入釣場所 オンコの沢

☆潮 干潮 22:19 86cm

満潮 03:48 142cm

干潮 10:54 14cm

☆釣果 アブラコ 338mm

重量 1530g

点数 491点

☆成績 18位

### 3日酔いの体に鞭打つて

職員の旅行を定山溪で行った。午前中に勤務を終え、31名の職場には不釣り合いな大きなバスに乗り込んだ。ガイド付きではあるがこのような場面で大変有能な職員がバスの中をとり仕切ってくれる。今回も昨年に続き紙競馬で退屈しないで目的地に着いた。ホテルはテレビコマーシャルにも出てくる「ビューホテル」である。

中国雑技団の舞台を楽しみにしていたが中華系の民族は少なくモンゴル系、更にはロシア系と様々入り交じった雑民団の様相を呈していた。酒の酔いでついウトウトとしてしまったが、眠りの中で垣間見る演技は中国4千年の歴史を偲ばせる見事なものであった。

その後、更に鼻の下を長くした部下が呼び込みに捕まり、カラオケバーに入る。先輩女性のダンスにも付き合わされ部屋に戻ったのは11時頃。部屋は、幹事が特別に用意してくれた最上階の大変豪華なものであった。しかし、部屋に入ると、そこは宴会場と様変わりしており、更にお酒に付き合う。ベッドにもぐりこんだのは3時ころであったか？ウトウトと眠りについた5時頃、先にぐっすりと眠っていた上司がテレビを見始め安眠を妨げる。

その前日は私たちの職能の向上を目指して岩見沢で組織されている会の一杯会があった。お酒が嫌いな方ではないので大会前日であっても、前々日であっても、ついうっかりと深酒をしてしまう。

大会当日のバスの中でも例のごとく酒を飲む。一昼夜、岩場で黙々と竿を振り続ける体力を考えて眠っておこうと考えるのだが眠れない。釣り以外では酒を飲むといつの間にやら熟睡してしまうのだが、これから始まる大爆釣を夢見ながら目は爛々と冴えわたってくるのである。

## 気分一新で臨むか

今回は前回の35周年記念大会で戴いたベストを着ての参加である。会の名前を汚してはならない責任の重さに潰されそうではあるが、晴れがましい気持ちもあり一番上に着こんだ。更に我慢に我慢を重ねてきた穴空きウェイダーも新調した。これで足元のあのいつものグチョグチョ感ともおさらばである。

今回の釣り場範囲は庶野港からであったが、かなり海が荒れているとのことで千平・有明・ルーランも入れるという。何のことだか分からずに例のごとく私はオンコの沢に入ったが荒れがひどい。大きなうねりもある。帰りのバスで確認すると千平・有明・ルーラン一帯は波が比較的穏やかであったとのこと。話に開くと、この辺りではオンコの沢が一番波風に弱いとのことである。

## 荒れ狂う波との戦い

オンコの沢第2覆道の手前でバスから降ろしてもらった。案の定、一人降りた私の目の前に広がっている海は、大きな高波が打ち寄せている。荷物をそこに置き、波の死んでいくところはないかオンコの沢トンネルの南口まで様子を伺いに往復する。これから満潮にかかろうとしているのでどこも同じような状況である。オンコの沢第2覆道の手前のチョロ川はちょうど工事中で立ち入り禁止の看板があるが脇をちょいと通らせてもらった。国道下を流れるその川の土管を潜って一段と高い四角いブロック（いわゆる豆腐）の上に出た。30分ぐらい竿も出さずに眺めていたがここには飛沫はかかるが波が豆腐の上を駆け登る様子はない。万が一、海に呑み込まれてもしようものなら、職場ばかりでなく釣遵会にも大変な迷惑をかけることになる。もちろん愛する大事な家族がいる。まだ海の藻くずとなることはできない。

## 戦意喪失

夜間でもありウネリもあることに用心しながらも、チョロ川のすぐ前のブロックの上から第1投を目の前の大波の中に入れた。砂混じりの海底でところどころに根がある。暗いうちは嫁さんをと、カンカイやアカハラ狙いで仕掛けをあちこちに投入する。しかし釣れてくるのはハゴトコと小さなアブラコばかり。一番奥の豆腐までと思うのだが高いうねりが途中の豆腐の上に乗っている。重い荷物をもって不安定な豆腐の上を歩こうものなら一気に太平洋の藻くずの人になってしまうであろう。しかたなくチョロ川からいったん国道の上に出て、覆道を北側に抜け、急なテトラの上を伝わって6時ころようやく目的の場所に入ることができた。しかし釣れてくるのはやはりハゴトコと小さなアブラコばかり。せっかく干潮時間に合わせて、帰りのバスの出発時間を1時間繰り下げて11時にしていたのに、戦意喪失しそうである。

## 竿尻を持ち上げた正体は

8時、またまた場所の変更である。空身でオンコの沢トンネルの南口までもう一度往復して少しでも波の死んでいそうなところを確認する。ゴロや撒き餅を使いきり荷物は軽くなったが気持ちは暗く足取りも重たい。高い岩が波を消してくれ、少しばかり波の弱まっているところへ気分を新たに少なくなって来たカツオを付けて2本とも思いっきり遠投する。3本目を用意していると、ガタガタッと竿尻をたたく音がする。見ると1本は糸フケが出ており、もう1本はバタバタとしきりに竿を揺らしている。カジカだっ！糸フケの出ているほうは後回しにして、竿を思いっきり煽る。すっぽ抜けて沖の海面を仕掛けが飛び上がる。沖の岩で波は死んでいるものの白波が立っており、そこは随分浅いのだ。

もう1本の竿の糸フケを丁寧にとり竿を煽る。今度はがっちり根がかりだ。時折ガクガクとした大きな手ごたえがあるので魚はついている。針がかりした後、カジカ様の穴にもぐりこんだものらしい。何度か根がかりがはずれてくれるよう挑戦するが結果は同じである。カジカの力が勝つか道糸が勝つか祈るような気持ちでゆっくりとしかも力を込めて引っ張る。ブツンとしたにぶい音の後、沖の方で持ち上がった道糸が強い風にあおられてヒラヒラと舞い戻ってきた。大物カジカの1本は針を加えているからだめとして、もう1本の大物カジカはすっぽ抜けているのだからまだその浅瀬にまだいるはずだと、何度も竿を振り込むがその後、アタリのないまま締め切り時間が来てしまった。

今回もやはり惨敗釣行記となってしまった。今年こそは大物をと夢見ていたがその機会はなく、1年の釣行が今回の大会を含めてたった2回で終了となってしまった。来年こそは、来年こそは頑張るぞ。

③6 / 21 東歌別 1146 5位

④7 / 26 オンコの沢 491 18位

1637 ÷ 2 = 818